

第4節 人口の将来展望

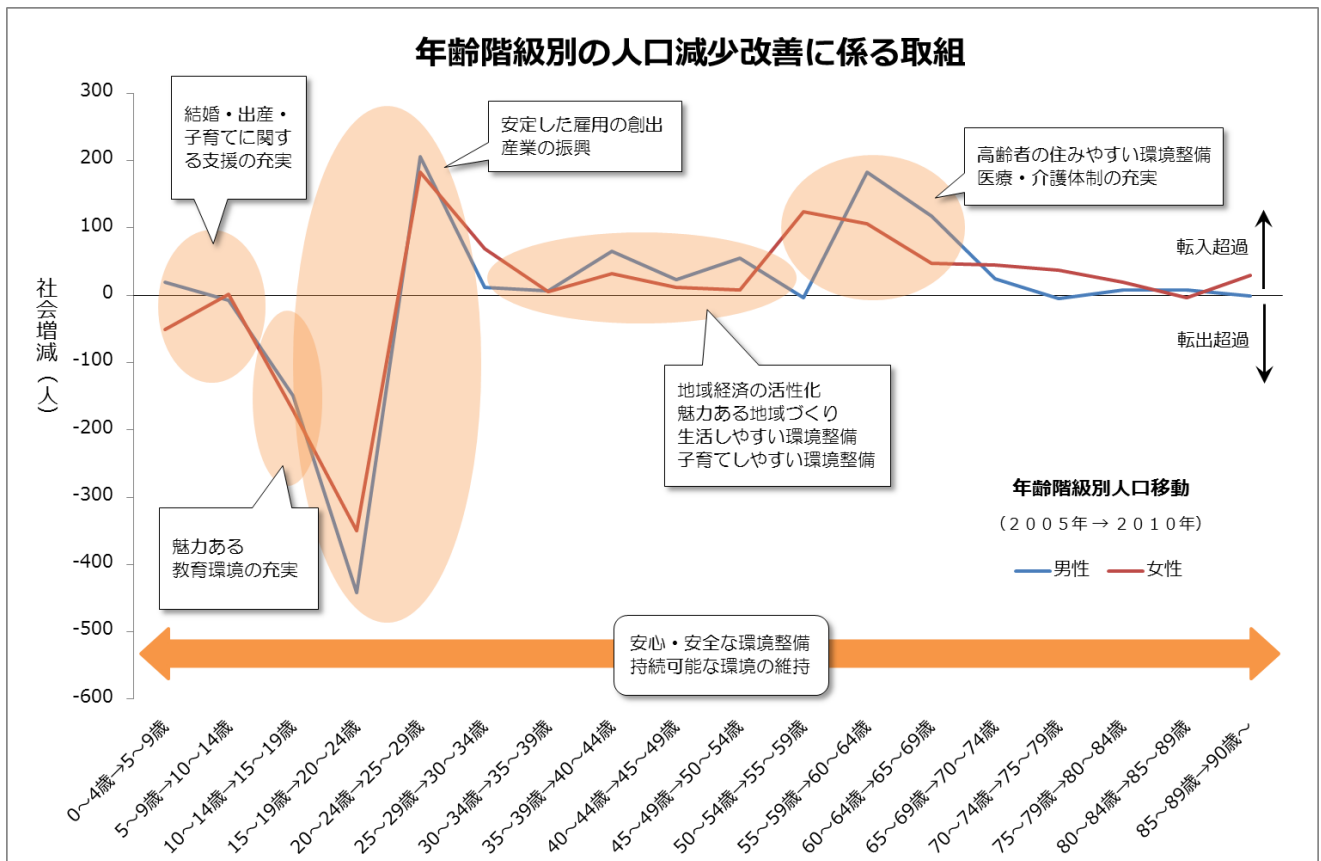
1. 目指すべき将来の方向

本市の社会増減を年齢階級別に見ると、進学・就職等に伴う若者の転出の多さに比較して、その後の大学卒業等に伴うUターンを主とした転入の少なさが、人口減少の大きな要因となっていることがわかります。

若年層の流出は、結婚・出産にも関わり、自然動態にも大きな影響を及ぼします。

こうした流れを変えるためには、転出の主要因であるとともに、転入の阻害要因ともなっている「就業の場」の確保が必要不可欠です。

一方、人口構造そのものを改善し、将来にわたって安定的な人口動態を維持するためには、安定した生活しやすい環境の基で、若者が地域に定着し、安心して結婚・出産・子育ての希望をかなえることができるよう支援し、出生率向上・自然動態の改善を図ることが重要です。



まちの活力を維持し続けるためには、まちの魅力に磨きをかけ、子どもから高齢者までが「住み続けたい」と思える、安心して生活しやすく魅力的なまちづくりを進めるとともに、それを将来にわたって安定的に持続させていくことが求められます。

また、自然増への転換が長期的に難しい本市では、外部からの転入促進も不可欠です。

多くの市民が「住み続けたい」と思える魅力的なまちづくりが、「訪れてみたいまち」・「住んでみたいまち」・「帰ってきたいまち」として、本市への人の流れを生み出し、結果として、人口の社会増とあわせて、まちの活性化にも繋がるものと考えられます。

このように、それぞれの世代や対象に合わせた取組により、転出抑制・転入促進、出生率の向上を図り、人口動態の改善を目指します。

【目指すべき将来の方向】

- ◆ 安定した雇用の創出
- ◆ 館山市への人の流れをつくる
- ◆ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ◆ 安心・安全で、持続可能なまちづくり

2. 人口の将来展望

国の長期ビジョンを勘案しつつ、目指すべき将来の方向性を踏まえ、社人研推計に準拠した中で、次の目標値を設定し、将来人口を展望します。

【合計特殊出生率】

2025年までに(1.80)、2030年までに人口置換水準となる(2.1)まで上昇させることを目指します。

【純移動率】

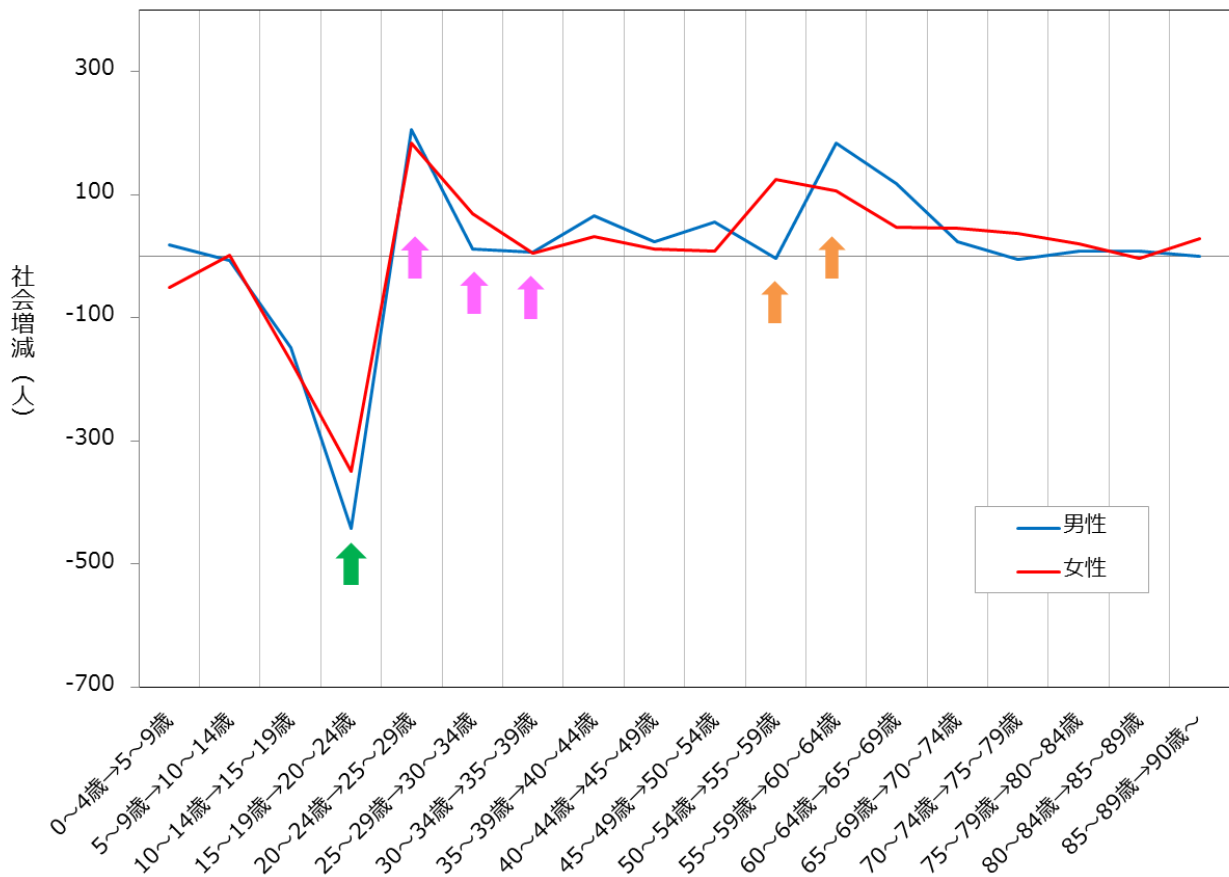
移動率の高い年齢階級の移動率を15%改善させます。効果が2020年から発現すると想定します。

※転出超過の場合は、社人研推計による移動率を85%に抑制

転入超過の場合は、社人研推計による移動率を115%に促進

- 15～19歳→20～24歳：転出抑制 — 緑↑
- 20～24歳→25～29歳：転入促進
- 25～29歳→30～34歳：転入促進
- 30～34歳→35～39歳：転出抑制
- 55～59歳→60～64歳：転入促進
- 60～64歳→65～69歳：転入促進

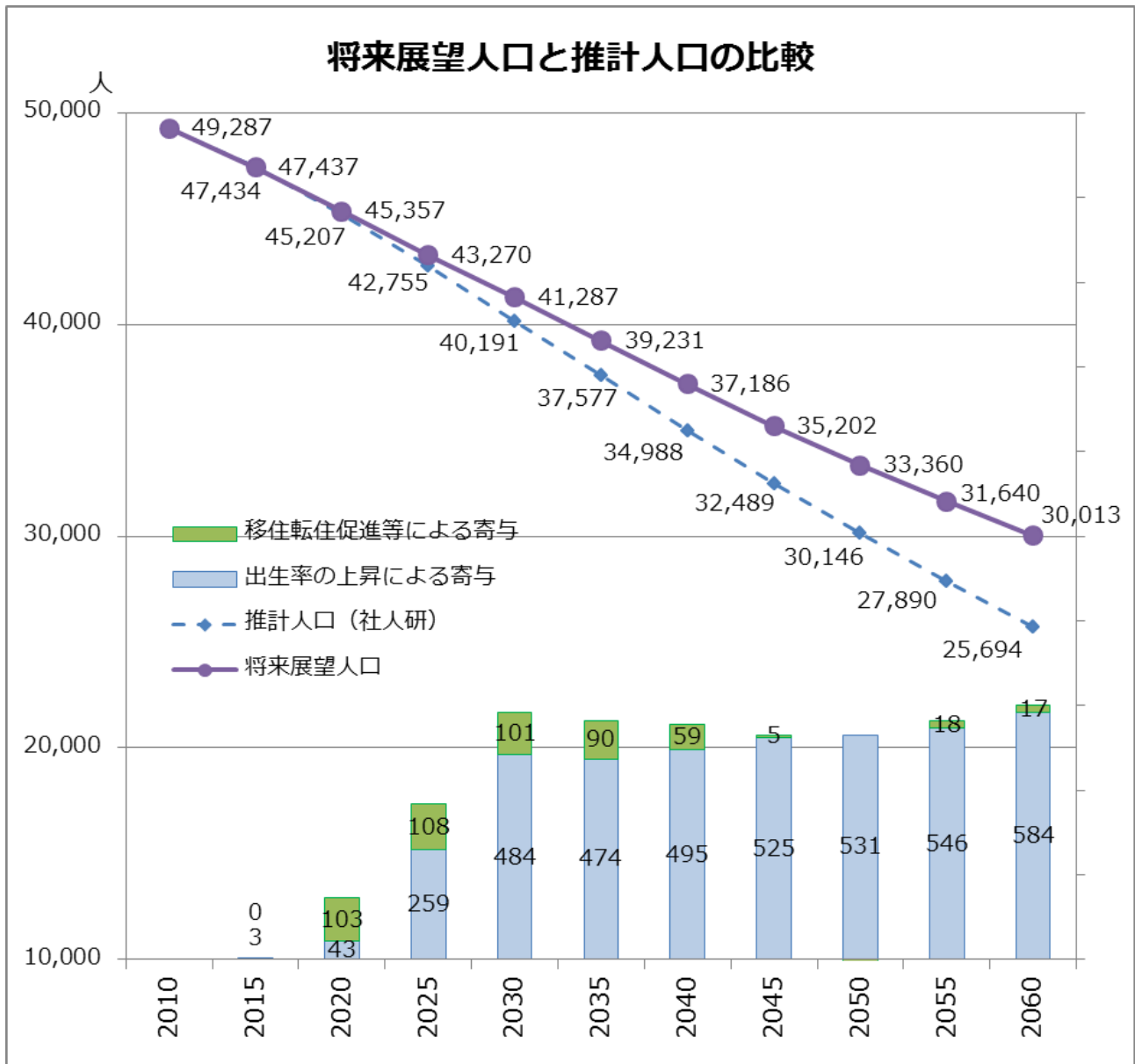
(移動率改善イメージ)



○ 2060年に3万人を維持する。

社人研の推計によると、2060年の本市の人口は25,694人まで減少するとされています。

目指すべき将来の方向性に向けた取組を進め、合計特殊出生率と移動率が目標値のとおり改善されれば、2060年には30,013人となり、社人研推計と比較して、約4,000人の効果が見込まれます。



第5節 おわりに

まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

館山市は、若者の移住・定住の促進，安心して生活できる環境の整備，それに基づく結婚・出産・子育ての希望の実現のため，安定した雇用の創出を最優先に取り組みます。

そして、「しごと」の創出により，館山市への「ひと」の流れを生み出し，幅広い世代が“住みたい”“住み続けたい”と思える，安心・安全で，持続可能なまちづくりを進めることで，さらなる「まち」の活性化・魅力向上に繋がる好循環の確立を目指します。